

令和6年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立調布大塚小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・体験したことや調べて分かったことなどを、新聞やポスターにまとめる活動を取り入れたことで、知識の定着につなげることができた。
- ・教科書や資料集以外の様々な資料を用いて指導したことで、事柄を多面的に捉えられるようになった。

(2) 課題

- ・他の観点に比べて知識技能の達成度がやや低い。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	≡		
第5学年	≡	≡ (第4学年時)	
第6学年	≡	△ (第5学年時)	≡ (第4学年時)

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較するとわずかに下回っている。	・目標値と比較すると上回っている。	・目標値と比較すると上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値と比較すると同程度である。	・目標値と比較すると上回っている。	・目標値と比較すると上回っている。

3 授業改善のポイント(観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・地図記号や方位、都道府県名などは、習得型の授業で他の知識と関連付けながら定着させる。	・新聞やポスターに表現する活動を継続的に行う。表現内容は、調査、見学、体験したことに、考えたことや疑	・見学や体験活動を多く取り入れ、生活と結び付たり、児童が主体的に取り組めるようにする。

・児童同士で説明したり、家庭で説明したりする理解確認の場を設け、知識の定着を図る。 ・習得させたい知識・技能に応じて、映像や実物などの資料を効果的に活用し、実感を伴った理解をさせる。 ・算数の時間を活用し、数値を正確に読み取る力を身に付けさせる。	問を個別に追究したことなども、加えて表現させる。 ・資料を有効に活用させて新聞やポスター作りに生かせるよう指導する。ICT を使った表現も指導する。	・学習内容やその理解度、学習態度について1時間ごとに振り返りをさせ、次時に生かすことを積み重ねる。
---	---	---

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・教員は授業内で、「社会科の見方・考え方」を明確に示し、重要語句の暗記ではなく、意味の伴った理解がでるよう説明をする。 ・家庭学習としての予習復習に加え、授業内での振り返りの時間を設定し、分かったことや分からなかったことを明確にさせる。 ・実物を見ることが難しい場合は、ICT機器を活用し、映像資料等の視聴覚教材を提示する。	・一つの事象に対して様々な視点を与えることで、多面的・多角的に考えられるようにする。 ・資料を読み取ったことからどんなことが言えるのかを話し合ったり確かめたりする時間を確保する。 ・ノートやスライドなどにまとめたり、発表したりする時間を充実させ、目的や対象に合わせて適切に表現できるようにする。	・時事問題等を取り上げることとて、自身の生活との関わりについて考えさせる。 ・授業の振り返りの際に、疑問に思ったことやさらに調べたいことを考える習慣を付けさせる。 ・単元の終わりに学習内容について探究する時間を設定し、進んで考えたり調べたりできるようにする。